

「習近平時代の学校教育の実態 ～国民形成の行方を問う～」

① 習近平時代の教育方針

2017年10月、共産党第19回全国代表大会の講話（要点抜粋）

「教育強国を建設することは中華民族の偉大な復興の基本」

「党の教育方針を徹底させ、教育の公平性を推進し、社会主義の建設者と継承者を育成せよ」

教育面でのキーワード

1、教育の公平化 2、教育内容への国家関与を進める 3、教育強国

② フィールドワークの報告

学校教育の実態

- ・ 2017年9月、青海省ゴロク・チベット族自治州
少数民族教育の実態＝民族団結、チベット族文化の尊重と継承、政府の「ペアリング支援」
- ・ 2018年3月 広東省湛江市
規模や立地の違う3小学校の「留守児童」問題への取り組みの比較
- ・ 2019年3月 河南省濮陽市
大規模中学校と農村小学校の教員の教育観や、児童・生徒の現状を比較

③ 幼児教育について

フィールド調査でみる幼児教育の変化

- 1、幼児教育普及が進み、農村部では少子化の影響もあり、幼稚園が整備された
- 2、幼児教育の理念は、識字や算数を偏重する就学前教育から心身の発達や人間性の育成へ
- 3、幼児教育の新しい児童観と教育観について教員と保護者の間に大きなギャップ

④ 教科書改革

- ・ 2012年から統一教科書（「部編版」「統編教材」）を作成
- ・ 2017年9月から小中学校の初学年で使用しはじめた

★ 統一教科書とは、教育部が中央の指針を受けて編集した義務教育段階の道徳と法治、国語、歴史の3科目の教科書である。人民教育出版社に委託作成。逐次に各版の教科書を取り換え、実質の国定教科書となる

- ・ 2016年10月中共中央弁公庁・國務院弁公庁は「新情勢における小・中・高・大の教材建設の充実と改善に関する意見」を公布。「イデオロギー性の強い教材及び国家の主権や安全、民族や宗教等の内容と関連する教材について、その編集・審査・使用は国によって統一する」と公布
- ・ 2016年12月、習主席は全国高等教育学校思想政治工作会議で「教材建設は人や人材を育成する重要な手段。どのような教材体系をつくるか、主要な教材でどんな内容を教えるか、どんな価値観を提唱するかについて、それは国の意志を反映するものであり、国家の責務である」
→教材の国家主義志向が強まる
 - ・ 国家教材委員会の成立（2017年7月）＝イデオロギー性の強い教材の審査
 - ・ 統一版教科書編集の三原則＝徳育重視／児童中心／「守正創新」
- ・ 歴史教科書の変化（中1-2、中国史部分）
 - 全体的に頁数は約1割減。文化史は3割減、総合学習は7割減。記述の簡略化。
 - 2000年代以降の内容が大幅増。現政権の主な政策や新しい成果が増えた。チャイナドリーム、一帯一路、有人宇宙など。文革批判は弱まった。
 - 近代史の内容、特に中華民国の成立と日中戦争に関する記述は増加。古代史は大幅減。
- ・ 国語教科書の変化
 - 伝統文化を重視、革命の伝統を重視
 - 読書を奨励。言語能力の「語文素養」の視点から、作文、討論会、資料調査、フィールド調査と報告書作成などのトレーニングが充実された。

⑤ まとめ

- ・ 学校教育の格差が改善。特に農村部や僻地の環境整備が進んでいる。
- ・ 受験教育から資質教育へと変化しつつある。
- ・ 少子化の影響は特に農村部で顕著で、農村学校の少人数教育を可能とした側面がある。
- ・ 幼児教育の普及と質的向上が進んでいる
→「国民教育の普及と均質化」
- ・ 統一版教科書の登場と内容改正は、国家主導で進められた。教育に対する国家主義の台頭
- ・ 内容面では特に古代の伝統文化、近代の革命精神、現代の社会発展が強調される。
- ・ 少数民族教育については民族文化の尊重・継承とその制限の二面がある
→「中華民族のアイデンティティによる国民形成」
- ★ 以上の変化より、中国の学校教育は次のような二つの相反する可能性を持つ
 - 1、資質教育の推進と教育の公平性を改善するための学校教育の環境整備により、資源集中式のエリート教育から資源の公平な配分を配慮する国民教育へと変化
 - 2、情報社会の広がりや生涯学習理念の推進により、学校教育の効果は相対化されてしまう。

習近平時代の教育改革の課題

- 1、 教育の普及と格差の是正を通してより均一的な国民を形成するか、それとも拡大する文化的資本の影響によって社会階層が固定化され国民の分断（？）をもたらしてしまうか。
- 2、 国家主導で進められたイデオロギー教育は現場レベルでどう受け止められていくのか。